

飯豊連峰 加治川古岐沢

岩田

【日時】 2007年7月7日～8日

【メンバー】 L小暮、岩田、笹川、高柳

前夜は加治川ダムの公園で仮眠し翌朝、対岸の踏み跡程度の道を歩く。15分ほどで沢に降り、いきなり困難な5mの滝が現れた。さすが飯豊、簡単には登らせてはくれない。8年前の古野さんの記録によるとこの滝の通過に4時間かかったらしい。ここは小暮さんが釜を腰までつかって滝の左壁にとりつく。残置シュリングがありそれを使って1段上がる。そこから落ち口に向かって登るのだがここが難しそう。しかし、ここで残置ハーケンを見つけそれにシュリングをかけ上がっていった。後続の3人はお助けを出してもらって難く通過。多分、通過に1時間はかからなかっただろう…。



次の7m滝は登ることができないので左から高巻くがここも悪い。急で滑りやすく、お助けを出してもらってなんとか上に上がりナナメ懸垂で河原に下りた。さて、次は何が出てくるのやらと思っていたらここからは穏やかになる。左に鉾山の跡を見て、かなり昔の堰堤を通過すると二俣に到着。小暮さん、高柳さんがここで竿を出すも収穫は無かった。

いくつかの滝を巻いたり、登ったり巻いたりするとまた穏やかな河原となる。飯豊の沢というと登攀的な沢を想像するがこんな沢もあるんだなと感心。しかしこの河原が意外と長かった。地図上の611m地点を過ぎ、7mの滝をお助けを使って登るとこの沢で一番大きい3段50mの大滝が現れた。ここは左からの高巻きとなったがかなり急な斜面で部分的に滑りやすいところがあり大変だった。小暮さんがザイルを出してトップに登り、あとの3人はザイルを頼りに登る。まったく、小暮さんにはお世話になりっぱなしである。この滝を越えると明るい河原になった。そろそろ今宵のテン場を、と探してみたがなかなか適当な場所が見つからない。左岸のヤブを少し入ったところになんとか平坦な場所を見つけたので整地してそこにツェルトを張った。テン場の少し上の左岸に支流がありそこに雪溪が残っていた。雪溪周囲にはまだ山菜がありいい酒のつまみになった。

翌朝、味噌煮込みうどんを食べて出発。すぐに奥の二俣に到着し右の沢に入ると7mの滝が現れた。見るからにヌメっていて登りにくそうだがここは私がトップで登る。思ったよりホールドは豊富で難しくはない。しかし続く7mの滝はそうはいかなかった。右から小暮さんが取り付くが中間部で止まってしまった。どうやら次の一歩が出せないらしい。下で見ている方も緊張してきた。降りようにも降りられなくなりどうするのかと置いていたらそこからザックを落とし空荷でなんとか通過。さすがである。

この先も3～5mくらいの小滝が続くが難しいものではなく快適に登れる。時にはシャワークライムとなりなかなか楽しい。雪渓を通過すると水が枯れ始めた。蒜場山に向けてヤブを登り始めるが思ったより長い。ヤブを抜け稜線に出たが山頂からやや北側に出てしまった。すでに山頂には数人のハイカーが到着しておりなぜか大量のトンボが舞っていた。ここからはダムに向けて登山道を下るだけだが異常なほど蒸し暑く、大汗をかきながらの下山だった。

登攀的な沢を想像していたがそう感じたのは最初だけで思ったより穏やかな沢だった。おそらく飯豊の沢の中では入門的と言えるのではないだろうか。

【グレード】3級

【地形図】蒜場山

【行程】7/7 入渓点(8:45)～二俣(11:00)～大滝(13:10～14:30)～BP(15:00)

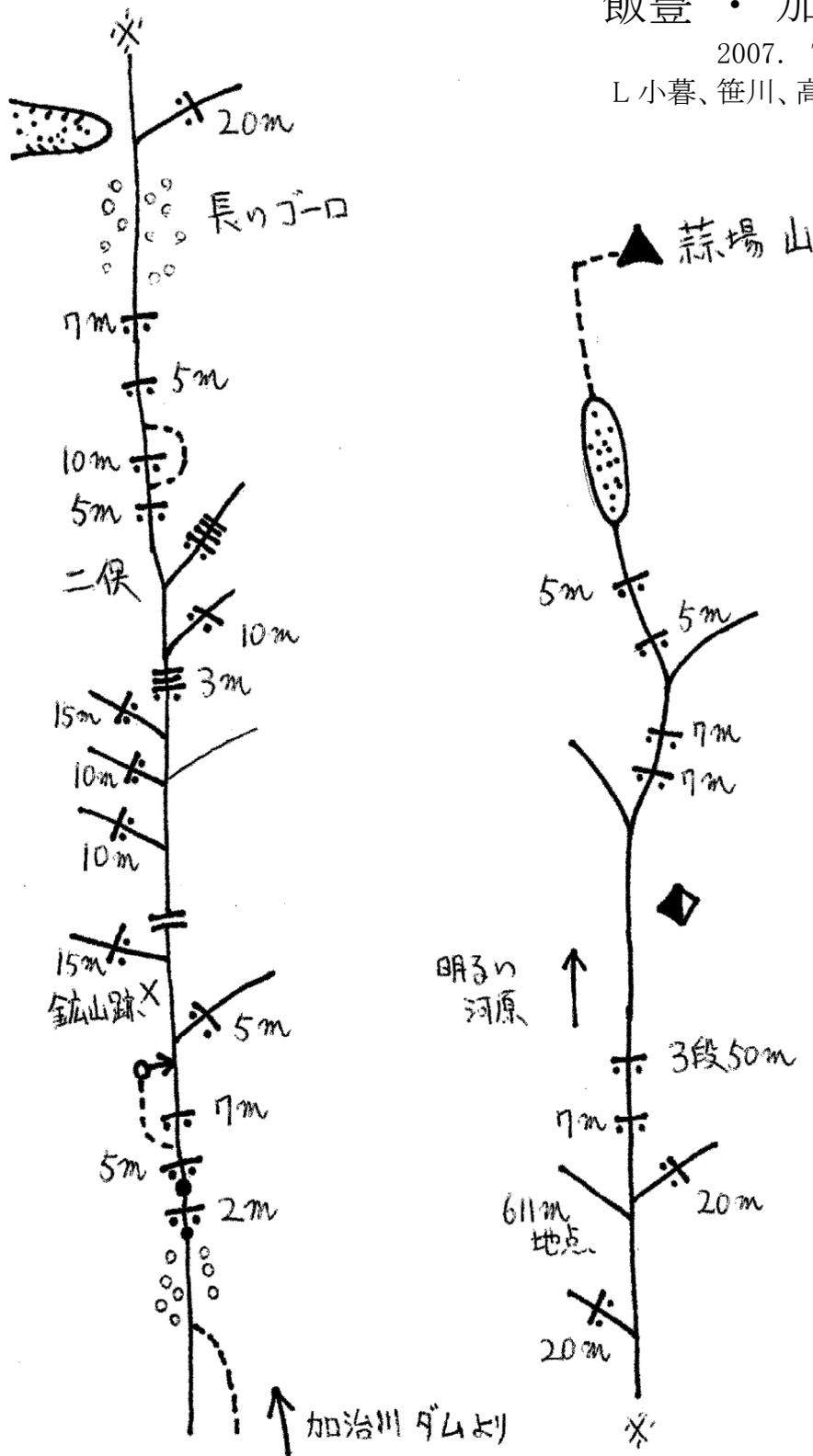
7/8 BP(6:50)～蒜場山(9:25)



飯豊・加治川古岐沢

2007. 7. 7~8

L小暮、笹川、高柳、岩田 (作図)



作図 岩田